

情報リテラシー教育のガイドライン

【到達目標 1】

情報社会の光と影を認識し、主体的に判断し行動することができる。

情報社会で適正な活動を行うための判断力を中心に、個人が守るべきルールやマナー、他者の権利の尊重及び自己の被害防止、健全な情報社会を構築するために必要となる心構えや安全に関する知識・技能を学ぶ。

【到達度】

1. 発信者の意図を理解した上で、情報を読み解く力を身に付けている。
2. 情報社会の光と影を理解し、安全に配慮して行動することができる。
3. 社会の一員としての責任を理解し、他者に配慮して情報を扱うことができる。

【教育・学修方法の例示】

上記の到達度達成に必要な教育・学修指導上の要点を例示する。

到達度 1 「発信者の意図を理解した上で、情報を読み解く力を身に付けている。」

- ① インターネット上には、信憑性や信頼性を確認しなければならないさまざまな情報が存在することと、情報には必ず発信者の意図が含まれていることについて、事例を示して理解させる。
- ② 情報の識別力を高めるために、情報検索や情報源の確認について、多様な方法をケーススタディさせて最適な方法を選択させる。

到達度 2 「情報社会の光と影を理解し、安全に配慮して行動することができる。」

- ① 身の回りで利用されている事例を踏まえて、情報通信技術の役割・特質について理解を深め、活用方法を考えさせる。
- ② 情報社会で遭遇しうるさまざまな危険・不安について、利用者の視点から、グループなどでケーススタディさせる。

到達度 3 「社会の一員としての責任を理解し、他者に配慮して情報を扱うことができる。」

- ① 発信する情報に責任を持つことの意義を理解させ、社会に対する影響を認識させる。例えば、虚偽情報、誹謗中傷など個人の意図的な情報発信がもたらす被害や、意図的ではなくても何気ない言葉によって、慣習・思想・信条・宗教・経済などの背景が異なる人々へ与える文化摩擦などを、グループで討議させ、自己責任の重要性を理解させる。
- ② 個人として配慮・遵守すべき点（例えば、基本的人権の尊重、知的財産権の理解、発信情報の真正性の確保、異文化への理解など）について、グループなどでケーススタディさせ、適切に情報を扱う態度を身に付けさせる。

【到達度の測定方法】

上記の到達度の達成を以下の課題で確認する。

- ① 発信者の意図を理解し、情報を識別するための多様な方法を列挙させる。
- ②③ 社会で情報通信技術が有効に使われている事例を挙げ、果たしている役割や特質について説明させたり、情報社会で遭遇しうるさまざまな危険・不安について列挙させ、利用者の視点から被害を防止するための方法を説明させる。情報を発信する者が遵守すべき事柄と負うべき自己責任の範囲について、事例をもとに説明させる。

【到達目標 2】

問題解決に情報通信技術を活用することができる。

情報通信技術の実践的な活用力を中心に、課題や目的に応じて情報通信技術を適切に活用し、主体的に情報を検索・収集・整理・分析・表現・伝達・発信するための基礎的な知識と技能を学ぶ。

【到達度】

1. 課題や目的に応じて情報通信技術を適切に選択することができる。
2. 課題や目的に応じて情報を検索・収集・整理・分析・表現・伝達・発信することができる。
3. 情報通信技術を活用して最適なコミュニケーションを行うことができる。

【教育・学修方法の例示】

上記の到達度達成に必要な教育・学修指導上の要点を例示する。

到達度 1 「課題や目的に応じて情報通信技術を適切に選択することができる。」

- ① 課題や目的に応じた情報通信技術やソフトウェアの活用方法についてグループで討議させることにより、解決手順・方法の検討や情報通信技術の適切な活用が重要なことを理解させる。
- ② ケーススタディを通じて、情報通信技術活用の新しい知見を得るために、いくつかの分野を対象とし、実務家とも連携して情報通信技術の効果的な活用について探究させる。

到達度 2 「課題や目的に応じて情報を検索・収集・整理・分析・表現・伝達・発信することができる。」

- ① 課題を提示し、Web やデータベースなどを活用して、必要となる情報を効率的に検索・収集する方法を習得させる。
- ② 収集した多様な情報を目的に応じて、表計算、統計解析等のソフトウェアを活用する課題を与え、情報を整理・分析し、批判的に吟味する方法を習得させる。
- ③ 文書処理、表計算、図形・画像処理、データベースなどのソフトウェアを目的に応じて使い分け、組み合わせて表現する方法を習得させる。
- ④ 情報の受け手の特性を踏まえ、プレゼンテーションや Web 作成等を通じて、効果的に情報を伝達・発信する方法を習得させる。

到達度 3 「情報通信技術を活用して最適なコミュニケーションを行うことができる。」

- ① 代表的な情報通信サービスを取り上げ、メッセージの到達範囲、即時性、公開の有無などの観点からコミュニケーションの可能性と限界を議論させる。
- ② 普及している情報通信サービスを体験させ、円滑で効果的なコミュニケーションの在り方を考えさせる。

【到達度の測定方法】

上記の到達度の達成を以下の課題で確認する。

- ① 代表的な情報通信技術やソフトウェアの特性について説明させる。
- ② 教員間で到達度の評価シートを作成し、自己評価や学生間でのピアレビューを行わせるとともに、必要に応じて実務家から評価を受けさせる。

【到達目標3】

情報通信技術の仕組みを理解し、モデル化とシミュレーションを問題解決に活用できる。

データの表現方法や情報通信技術の仕組みを理解し、社会における情報通信システムの役割を理解する。また簡単なモデルの構築、問題解決への適用、妥当性の検証を行うことで、科学的に解析する能力を身に付ける。

【到達度】

1. 情報のデジタル表現、情報システムの動作原理・構成を理解し、情報を科学的に捉えることができる。
2. モデル化とシミュレーションを通じて実践的な問題解決に取り組むことができる。
3. 社会における情報通信システムの役割を考え、有益なシステムの在り方を考察することができる。

【教育・学修方法の例示】

上記の到達度達成に必要な教育・学修指導上の要点を例示する。

到達度1「情報のデジタル表現、情報システムの動作原理・構成を理解し、情報を科学的に捉えることができる。」

- ① 文字、数値、画像、音などをデジタルで表現する仕組みを説明させる。
- ② CPU、メモリ、ハードディスクなどの実物を見せることで、コンピュータの構成を理解させ、ソフトウェアの動作の仕組みと関連づけて理解させる。
- ③ プログラミング環境を利用して、アルゴリズムを具体的なプログラムとして実現し、コンピュータで実行させる。
- ④ Web やメールの通信履歴を見せることで、ネットワークの仕組みや通信プロトコルの役割を理解させる。

到達度2「モデル化とシミュレーションを通じて実践的な問題解決に取り組むことができる。」

- ① 現実の問題から抽象的なモデルを構築するプロセスや、モデルを扱うことの利点を理解させる。
- ② 構築したモデルからシミュレーションなどを用いて解を求めさせる。
- ③ シミュレーションの結果を分析・評価し、モデルの妥当性や限界を議論させる。

到達度3「社会における情報通信システムの役割を考え、有益なシステムの在り方を考察することができる。」

- ① 身近な情報通信システムの技術をとりあげて、社会における情報通信システムの役割を吟味させる。
- ② セキュリティに関する事件を紹介するなどして、セキュリティ技術の必要性を認識させ、身のまわりの情報通信システムについて批判的に考察させる。
- ③ 社会を発展させるための情報通信システムの構築を考察させる。

【到達度の測定方法】

上記の到達度の達成を以下により確認する。

- ① 私情協などのコンソーシアムを通じて標準化された到達度試験などにより達成度を確認する。
- ② モデルを作成させ、対象の特徴を表すパラメータや実際の動作に即しているかなど、モデル化のねらいに照らした妥当性を説明させることで評価する。
- ③ 社会における情報通信システムについて批判的に考察させ、情報化社会の在るべき姿について発表させ、相互評価や外部評価などで確認する。